

小・中学生向けヤングケアラー実態調査結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

こども家庭庁は、子ども・若者育成支援推進法に基づき、市区町村に対し、ヤングケアラーの実態を把握するための調査を定期的に（少なくとも年1回程度）実施する旨の通知を発出している。これを踏まえ、本市においては、市内の小・中学生を対象として任意の記名式調査を実施し、ヤングケアラーの実態把握を行うとともに、把握した結果を基に、個別具体的な支援へとつなげることを目的とする。

(2) 調査対象

市内小・中学校に在籍する市内在住の小学5年生及び中学2年生

(3) 調査方法

オンライン回答

(4) 調査期間

令和7年9月25日から10月8日まで

2 回答の状況

区 分	対象者数	回答者数	回答率
小学5年生	3,735	3,215	86.1%
中学2年生	4,047	3,397	83.9%
全 体	7,782	6,612	85.0%

3 調査結果

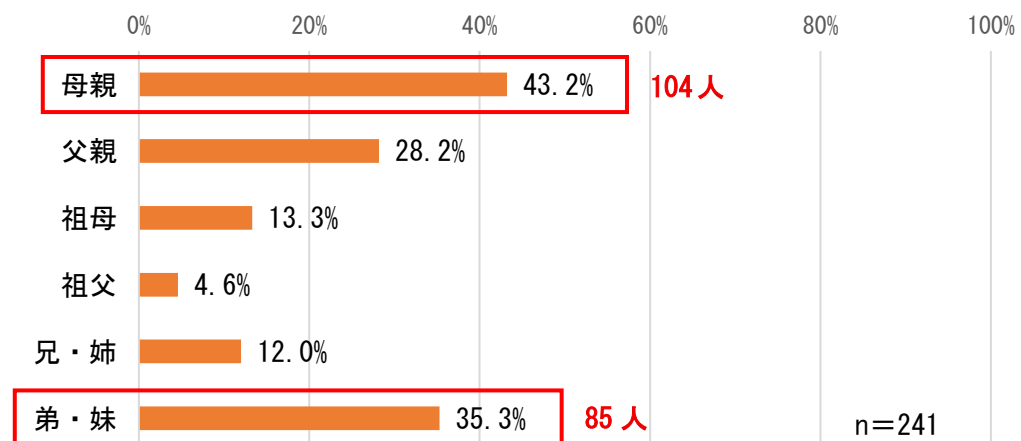
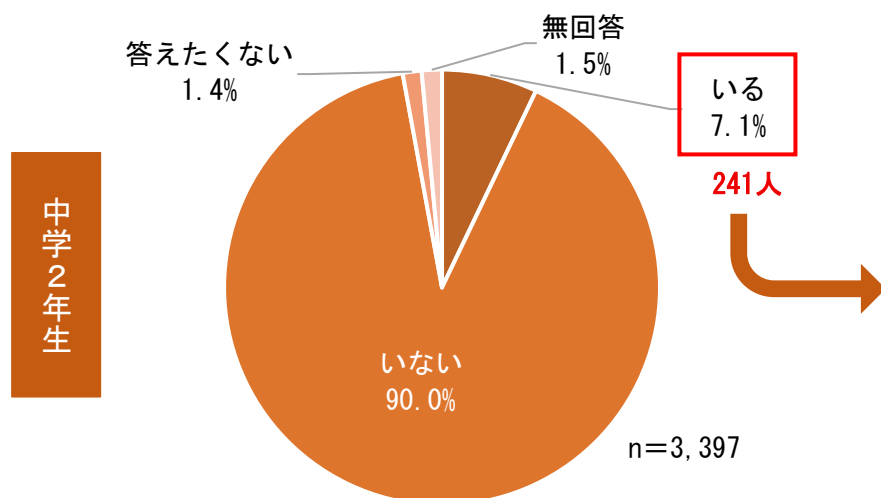
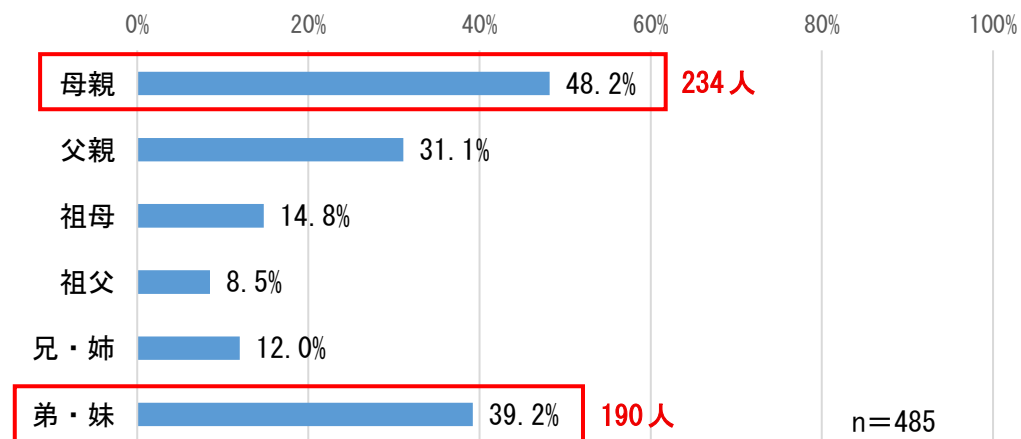
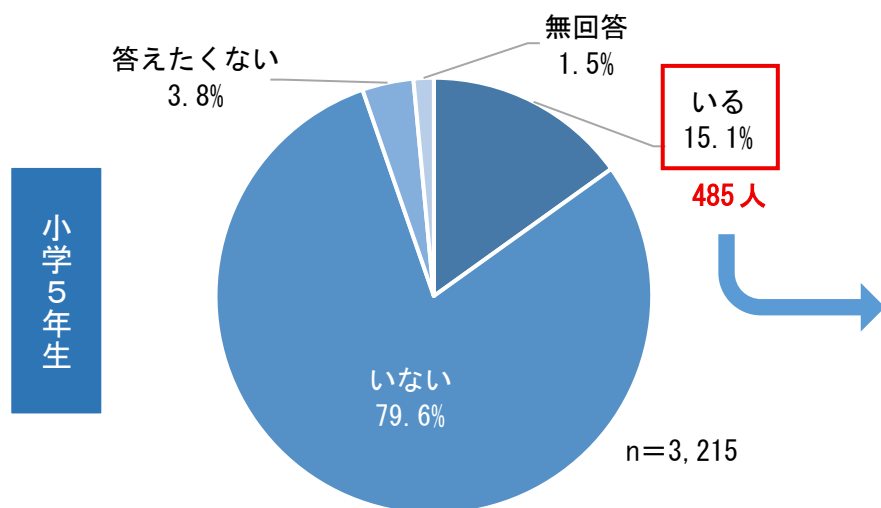
① 「お世話をしている家族の有無」と「お世話をしている家族の内訳（複数回答）」について

○お世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学5年生で485人（15.1%）、中学2年生で241人（7.1%）。

○お世話をしている家族の内訳について、小学5年生、中学2年生ともに、「母親」が最も多く、次いで、「弟・妹」が多い。

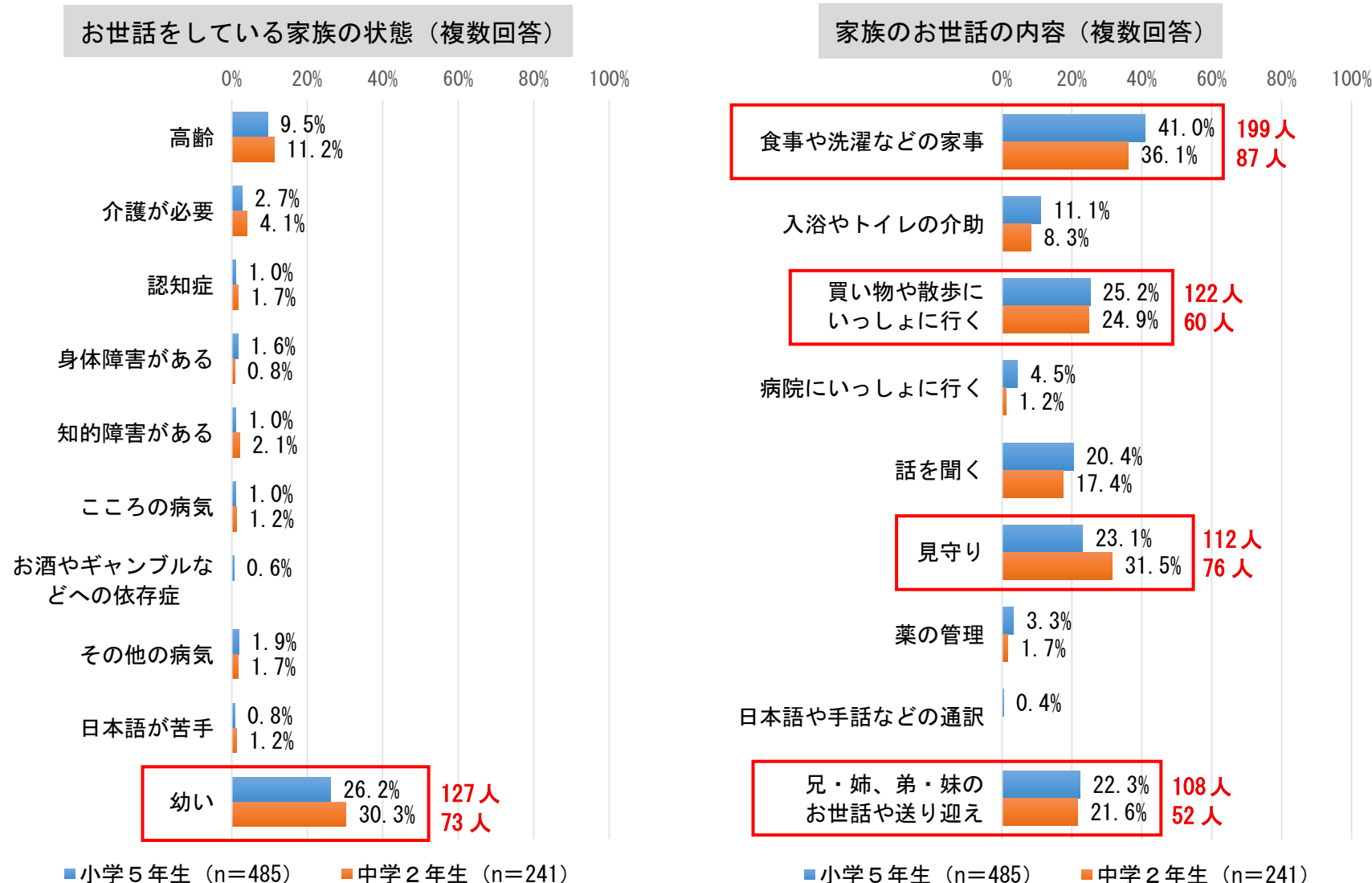
お世話をしている家族の有無

お世話をしている家族の内訳（複数回答）



② 「お世話をしている家族の状態（複数回答）」と「家族のお世話の内容（複数回答）」について

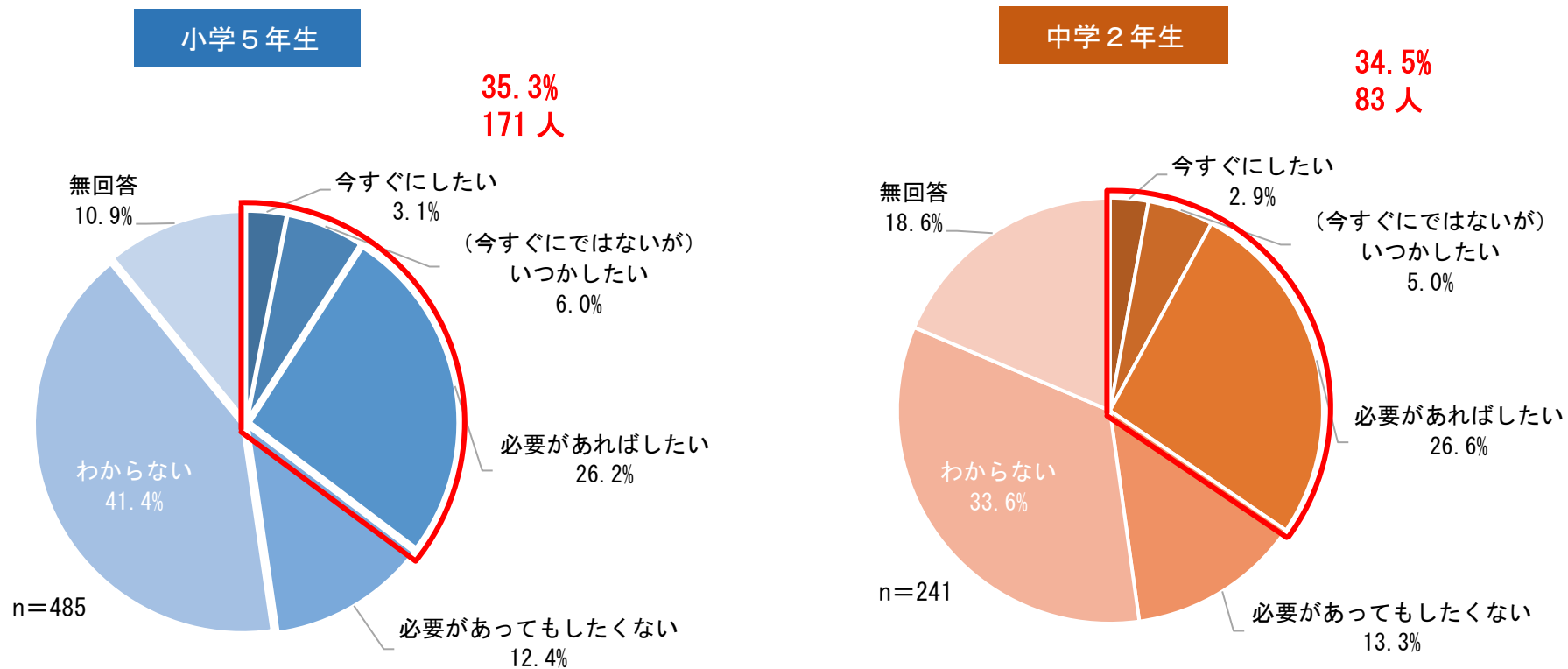
○お世話をしている家族の状態について、「若い」が小学5年生で127人（26.2%）、中学2年生で73人（30.3%）と最も多い。
 ○家族のお世話の内容について、小学5年生、中学2年生ともに、「食事や洗濯などの家事」が最も多いほか、「見守り」、「買い物や散歩にいっしょに行く」、「兄・姉、弟・妹のお世話や送り迎え」が20%台。



③ 「家族のお世話に関する今後の相談ニーズ」について

○学校との情報共有や児童心理司による面接後、実際に家族のお世話をしていた児童生徒に対象を限定し、人数及び割合を算出。
○相談のニーズについて、「今すぐにしたい」、「(今すぐにではないが) いつかしたい」、「必要があればしたい」を合わせた《相談したい》と回答したのは、**小学5年生で171人(35.3%)**、**中学2年生で83人(34.5%)**。

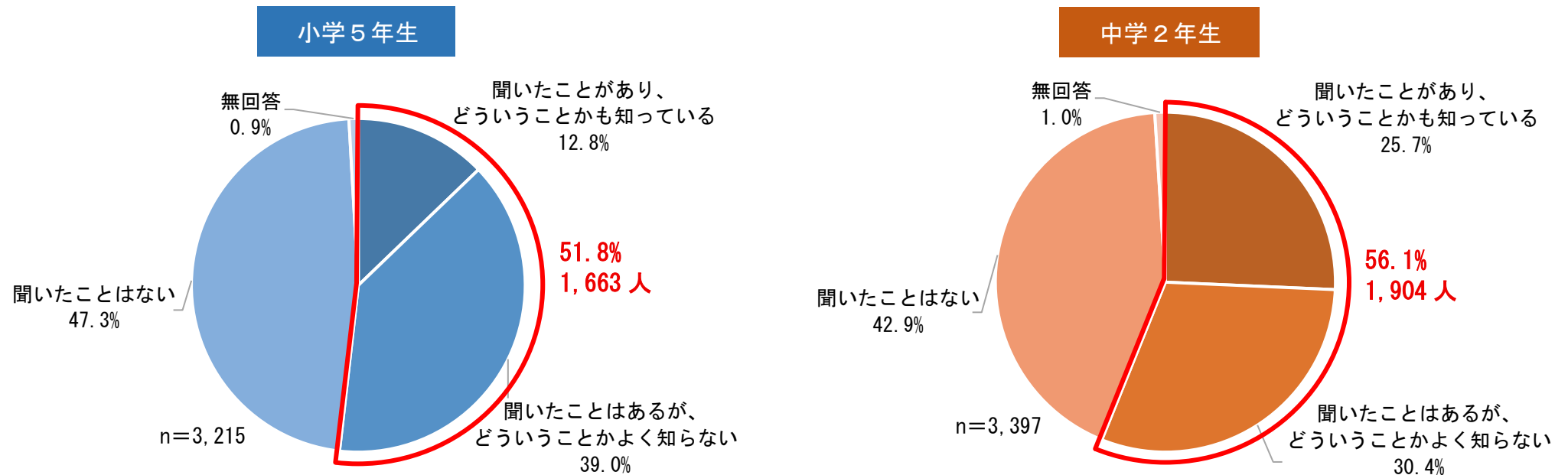
家族のお世話に関する今後の相談ニーズ



④ 「ヤングケアラーの認知状況」について

○ヤングケアラーの認知状況について、小学5年生、中学2年生ともに、「聞いたことがあり、ということかも知っている」と「聞いたことはあるが、ということかよく知らない」を合わせた《聞いたことがある》は50%を超える。

ヤングケアラーの認知状況



【参考】ヤングケアラー認知状況（令和4年度石川県調査（金沢市分）、中学2年のみ）

